

平成30年度 海外インターンシップ報告書

信州大学 理学部 理学科 2年

実習期間	平成 30年 8月 26日(日) ~ 9月 2日(日)	8日間
実習企業	THAI DELICA CO.,LTD	
実習地	780/190 Moo 1, Nongkham Sub District, Sriracha District, Chonbri 20230	

1. 実習目的

Chapter1 purpose

現在仕事について考えたとき、どのような形で海外と関わっていくことは最早必然であり、早い時期から海外に目を向けて積極的に関わっていきたいと考えているため。

タイ王国は現在日本企業が多く参入している国であり、すなわちこれから日本企業が進出していく国々の未来の姿の可能性といえる。そのためタイ王国の現状を見つめることは現在と未来を同時に俯瞰したと捉えることができると考えたため。

2. 実習先概要

Chapter2 summary of company

- ・会社名：THAI DELICA CO.,LTD
 - ・HP:<<http://thaidelica.net/ja/>>
 - ・所在地：Pinthong Industrial Estate 1 789/190 Moo 1 Nongkham Sub - District Sriracha District Chonburi 20230
 - ・事業内容：農業用トラクタと作業機を連結する3点リンク機構、その他機能・機構部品
- managing director：戸田 裕之
- ・対応いただいた方々
- 戸田 裕之
飯島茂

3. 実習日程

Chapter3 schedule

- ・8月26日(日)
21:20 羽田空港集合
- ・8月27日(月)
0:10 飛行機搭乗
0:40 飛行機離陸
以降現地時間
4:45 スワンナブーム国際空港到着
6:45 タイデリカ到着



図1) THAI DELICA の外観

8:15 朝礼を見学

10:15 工場見学



図2) THAI DELICA 内装

15:00 退社

・ 8月28日(火)

7:00 出社

13:00 (SAITHIP SPAREPARTS CO.,LTD) サプライヤー訪問



図3) SAITHIP SPAREPARTS CO.,LTD 玄関にて

14:30 サプライヤー訪問終了

・ 8月29日（水）

7:00 出社

8:00 会社到着。工場見学。

15:00 クボタの方が会社に営業に来る

16:30 クボタの方が帰る。

18:30 会食

・ 8月30日（木）

7:00 出社

8:00 会社到着。

9:00 バンコクへ移動

10:00 （NIPPON STEEL & SUMIKIN BUSSAN）商社到着

11:30 業務終了

14:00 （INOUE PRODUCTS ASIA CO., LTD.） 鋳造屋到着。以降会社見学。



図 4) INOUE PRODUCTS ASIA CO., LTD. 玄関

15:00 見学終了

・ 8月31日（金）

7:00 出社

8:00 業務開始。THAI DELICA 内での報告会。

10:00 THAI DELICA 出発

13:00 Kubota 到着。社内見学。



図 5) Kubota にて

15:00 見学終了。

・9月1日(土)

12:00 Kubota 展示会见学



図 6) Kubota 展示会にて

13:00 見学終了

22:00 飛行機離陸

・9月2日(日)

以降日本時間

6:00 羽田空港到着。

* ここで使用した写真は貴社に対して作らせていただいた報告書にのみ添付してあるため、もしも機密情報があったとしても他へ漏れることはありません。

4. 実習内容

Chapter4 laboratory

工場見学、サプライヤー訪問、Kubota 来社対応、NIPPON STEEL & SUMIKIN BUSSAN 訪問、INOUE PRODUCTS ASIA CO., LTD 訪問、Kubota 訪問、Kubota 展示会訪問

5. 実習の成果(成長した事)

Chapter5 result

実習に行くことで、海外でビジネスをしていくことの認識が変わった。

日本語が通じないということは意思疎通ができているかがわからないということであり、それ即ち指示系統が麻痺していることと変わらないと私は考えていた。しかし現地でお話や実際の現場を見てみると、それは違うということが分かった。人と人のコミュニケーションは例えば身振り手振りのできる上、この企業さんは通訳さんもいた。更に社員さんの教育もしっかりされており、現地の方が指示を飛ばすことができていた。このような点から指示系統に問題があるようには見えなかった。

また、海外でビジネスをしていくことは日本で行なうよりも難しいと考えていた。その点を企業さんは否定はしなかったがそれでも、日本で仕事ができない人が海外に出てもうまくいかないし、逆に日本でうまくいく人は海外に出てもうまくいくことがあり、結局のところは仕事ができるかどうかである、とこのようなことを言っていた。

他に海外の人に対する印象が変わった。私は海外の人は不真面目に仕事をするものだと思っていたがそんなことはなく、至ってまじめに仕事をしていた。

このように現地に行かないと分からないようなことを経験できたことは良かったと思う。

6. 今後の課題

Chapter6 problem

まず目的意識が低いと指摘をしていただきました。もう1歩踏み込むこと意識してやっっていこうと思う。

また、企業さんと一緒に行動するにあたってもう少し緊張を解いた状態で挑めたら良かったと思う。企業さんともっとお話ができたなら更に多くの経験ができたと思うので一抹の後悔が残る点である。このことを肝に銘じて行動していこうと思う。

7. 海外インターンシップに行こうか迷っている学生に一言

Chapter7 Advice

悩む時間があるならばまず一度説明会に行ってみるといいかもしれません。そして良いと思ったら手を伸ばしてみたいはいかがですか。一歩踏み出してみると違う景色が見えるかもしれません。

8. 謝辞

Chapter8 Address of gratitude

まずタイデリカ及びデリカ様、このたびはインターンシップとして御社にお邪魔をさせていただきありがとうございました。この経験は私の財産として生かしていく所存です。そして今回訪問させていただいた企業さんの方々も親切にいただきありがとうございました。

※必要に応じてインターンシップ実習中の写真等を文中に挿入してください。
※行数は必要に応じて増やしてください。全体が3ページ以上になっても結構です。
※本報告書は、学生氏名、指導教員氏名を除いてインターネット上に公開します。



今回は本当にありがとうございました。